

保護者や地域の皆様へ

危機に臨んで。工夫できたこと、そして、反省したこと。

校長 齋藤 有厚

5月1日、元号が「平成」から「令和」に変わり、何か清々しい思いでスタートした本年度、こんな形で年度末を迎えようとは、全く予想できませんでした。臨時休業（22日間）は、長い教員生活で初めてのできことでした。まさに、“コロナパニック”とも言える状況でした。この期間に、子どもたちの中に感染者を一人も出すことなく、また、大きな事故等の報告もなく、過ごすことができました。保護者の皆様には、横浜市教育委員会からの通知に基づく本校の取組（方針）に対して、ご理解とご協力をいただきましたこと、深く感謝いたします。保護者や地域の皆様の真摯な対応に、心強ささえ感じた次第です。

そんな休業中の19日（木）に、第58回卒業証書授与式を実施しました。横浜市教育委員会の通知に基づき、「保護者や在校生は不参加」「呼びかけ、歌、式辞や祝辞も可能な範囲で自粛あるいは短縮」等のルールの下、卒業生と教職員だけの式となりました。しかし、6年生、5年生、PTA、キッズクラブのスタッフ、そして、教職員がアイデアを出し合って、心のこもった記憶に残る式になったように思います。次のような取組が行われました。

- ・ 5年生が感謝と応援を伝えるビデオメッセージを作成してくれました。
 - ・ 6年生が、卒業する思いをメッセージカードに書いて、体育館の扉に掲示しました。
 - ・ 教職員が、教室、廊下や体育館を、バルーンアートや黒板アート等で飾り付けました。
 - ・ 教職員が、後日、卒業生やその保護者を招いて、卒業式のビデオライブを開催する準備をしました。
 - ・ 卒業生と保護者と教職員が、運動場に広がり、風船を青空に飛ばして、卒業を祝福しました。
 - ・ PTAの働きかけで、“ゆず”のお二人から「卒業、おめでとう」のビデオメッセージをいただきました。
 - ・ 岡小キッズクラブのスタッフから、卒業生全員に、キャンディで作ったレイがプレゼントされました。
 - ・ 式辞、PTA会長の祝辞、“ゆず”からのメッセージのフル原稿を紙面にまとめ、卒業生へ配布しました。
- 厳しい条件の下でしたが、周りの大人たちの温かい気持ち、卒業生に伝わったものと思います。ご支援いただいた皆様に感謝します。以上が、工夫できたことです。

次に、今回のことで、反省すべきことも多々発見できました。

- ・ 標準授業時数を下回った教科・領域等が若干見られたこと。
- ・ 教科・領域等の中に未履修の内容が、若干見られたこと。
- ・ 家庭学習に課した内容が適当であったか、やや不確な部分があったこと。
- ・ 休業中、スマホ等でのゲームに多くの時間を割いている子どももいたということ。

上位の3点について、新年度、学校で対応を吟味していきます。4点目については、今回の臨時休業とは限らず、社会問題化（子どもが犯罪に巻き込まれる、いじめに発展するなど）している内容です。安全教育の観点から、PTAとも連携しながら学習の機会を検討していきます。各ご家庭でも、フィルタリングを掛ける、使って良い時間を制限する、子どもの使用履歴を定期的に確認するなど、子どもを守るための工夫を積極的に進めてください。

明日から春休みに入ります。引き続き、新型コロナウイルスによる感染防止・拡大防止のための行動基準の遵守をお願いします。令和元年度、ありがとうございました。